

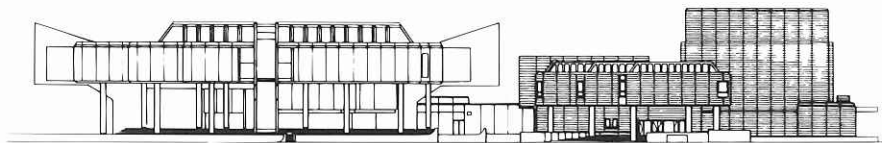
長崎細見之図(部分)(嘉永3年刊)

# 佐賀県立博物館・美術館報

SAGA PREFECTURAL MUSEUM · SAGA PREFECTURAL ART MUSEUM

1 August 1996

No. 114



## 佐賀県立博物館の常設展更新について

### 1. 部門別展示から通史展示へ

#### (1) 常設展更新に至る経過

昭和45年10月に開館以来当館の常設展「佐賀県の歴史と文化」も今年で満26年を数える。その間自然史・考古・歴史・民俗・美術・工芸を網羅した総合博物館として、佐賀県を代表する各分野の資料を収集し、体系的な展示を試みてきた。各分野の展示室配置や順路など小規模な変更はあったが、昭和58年の県立美術館開館に伴う近代美術分野の分離まで基本的な変更はなされていない。

このような中、常設展の1日あたりの入場者数は当初5年間平均113人であったものが、次の5年間には66人に半減し、昭和58年度の美術館開館と平成元年度の吉野ヶ里効果による一時的な増加を除けば低迷を続けてきた。そこで平成元頃からは、常設展の活性化をめざして「小さな展覧会」の名のもとに常設展示場内で、各分野とも年間4～5期に分けてのテーマ展示を行うようになった。この間、規模の大きなものは平成5年度から「常設特別展」として予算化し、博物館の固定ファン層からは一定の支持を得たが、入館者の増加に繋がるには至らなかった。

その後平成4年度からは高校生以下の観覧料を無料とすることにより生徒・児童の利用は増加傾向に転じたが、全体としては、展示の十分な改善がなされたとは言えない状況であった。

一方、常設展のマンネリ化を打破すべく企画した常設特別展であったが、当館企画展や常設特別展の開催は特定テーマに重点を置いたものであるため、どうしても展示内容に偏りが生じ、県外からの観光客や県内の児童・生徒にとっては、かえって佐賀県の歴史と文化を概観する機会を奪う結果となっていた。実際当館にも古唐津や古伊万里などの肥前陶磁、鍋島織通や鍋島更紗、肥前刀、副島種臣や中林梧竹の書、百武兼行や岡田三郎助らの近代洋画などについて期待に反して観覧できなかったという苦情が度々寄せられていた。

また展示手法や展示補助具などの面において

も、基本的には昭和45年の開館当時のままであり、課題が山積みしていた。展示手法の面ではよりヴィジュアルなわかりやすい解説を検討する必要があると感じてきたし、展示面積の不足から収蔵展示に終始してきた民俗部門の抜本的改善も急務となってきた。展示補助具では逐次各分野ごとに追加作成してきたキャプション・パネルの規格・内容面での不統一や汚染・劣化、展示ケース内や展示台のクロス汚れなどが改善を迫られていた。

#### (2) 常設展更新の概要

以上のようなこれまでの常設展の反省を踏まえ、新しい常設展では常時佐賀県の自然と歴史・文化について概観できるよう、その展示構成についてまず刷新を行った。そのために、博物館と美術館を一体的に活用することとし、基本的に博物館を常設展示場、美術館を企画展示場として、従来の博物館企画展や常設特別展（小企画展）は美術館で開催することとした。逆に近代美術の常設展示を博物館でも行うこととし、また従来、自然史・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野ごとに同時に行っていたテーマ展示を博物館3号展示室の1コーナーに限定し、1分野1ヶ月程度の会期で順次展示替えを行うこととした。これにより博物館展示場は名実ともに常設展示場として機能することが可能となった。

常設展示の構成も特に2号・3号展示室においては、従来考古・歴史・美術工芸の各分野別の、



1号展示室風景

しかも近世までを主体とした展示であったものを  
 通史展示とし、近代美術や民俗資料も取り込んで  
 近・現代までの歴史の流れの中にそれぞれの資料  
 を位置付けた。また1号展示室の自然史部門や大  
 展示室の民俗部門も極力各分野を網羅した体系的  
 な展示となるよう意を用いた。

その展示項目と配置は4～5Pのとおりである  
 が、展示構成や内容の特記すべき点についていく  
 つか紹介しておきたい。

まず、1号展示室の自然史部門は展示面積の制  
 約もあって、従来各会期ごとに1・2のテーマに  
 絞っての展示であったが、上記の目的に合わせて  
 地質・化石・植物・昆虫・有明海特産生物に関す  
 る5つの小項目を常設した。特に昨年度企画展に  
 伴い、作製した有明海特産生物の樹脂封入標本は  
 体色なども生体に近く、特徴的な有明海干潟の自  
 然環境を学習する上で貴重な展示となっている。

2号展示室から3号展示室は時代順に5つの大  
 項目からなる通史展示で、考古・歴史・美術工芸各  
 分野の資料を織り混ぜて展示した点に特徴がある。

「文明のおこりと佐賀」のコーナーは展示ケー  
 スの新設により吉野ケ里遺跡をはじめとする弥生  
 時代の展示が充実したものとなった。「古代国家  
 への歩み」と「肥前国と武士団」のコーナーは、  
 従来館蔵資料が少ないことから展示の手薄な部分  
 であったが、新たな借用資料も含め、今回特に考  
 古資料や仏教美術を中心に展示の充実を図った。  
 また文祿・慶長の役関係で、現在本館の代表的産  
 物となっている陶磁器の起源を示す展示を行った  
 ことも新しい試みである。「佐賀藩と近世社会」の



2号展示室風景

コーナーは長期の展示に耐えない古文書・絵図等  
 の資料が多いため最も腐心した部分であるが、固  
 定小項目の他に7つの選択小項目を設け、この中  
 から順次2～3の小項目を選択して展示していく  
 こととした。展示面積を必要とする近世絵画等につ  
 いては、肥前出身の代表的絵師の作品3～4点  
 に絞り、その他は3号展示室北側のテーマ展示コ  
 ーナーを活用することとした。

『近代の佐賀』では近代洋画とラジオ・蓄音機  
 などの近代化資料の展示が新しい。展示作品は限  
 られるが、岡田三郎助など本県を代表する作家の  
 作品をここで常時観賞することができる。3号展  
 示室北側のテーマ展示コーナーでは今年度8本の  
 テーマ展示を予定している。

大展示室は民俗部門の展示である。展示項目は  
 従来とほぼ同じであるが、展示スペースの増大と  
 展示環境の整備により、展示効果は倍増したと言  
 える。

一方ハード面では、

1. グラフィックパネル・キャプションの製作
2. スチールネットの取り付け（大展示室）
3. 展示ケースの増設（2号展示室）
4. 展示台の製作・塗装
5. 照明設備の改修（大展示室）
6. 移動壁のクロス張り替え（大展示室）
7. 展示ケース内床面のレーザー張り替え

などを実施し、エレベーター設置や展示室床面  
 張り替えなどと相俟って、常設展示場は面目を一  
 新することとなった。このうち1と2について次  
 に詳述することとしたい。



大展示室風景

## 2. 展示項目と展示スペース

### A 佐賀の自然

#### 1 佐賀の大地

- ① 佐賀の地質のなりたち
- ② 化石は語る

#### 2 佐賀の生き物

- ① 佐賀の植物
- ② 佐賀の昆虫
- ③ 有明海の生き物

### B 文明のおこりと佐賀

#### 1 狩りと採集の日々

- ① 石器を作った人々
- ② 細文土器の世界
- ③ 細文人の生活誌

#### 2 稲と銅と鉄と

- ① 水田稲作と支石墓
- ② 弥生のくらし
- ③ ムラからクニへ
- ④ マツリと装い



### C 古代国家への歩み

#### 1 古墳と豪族

- ① 古墳の形成と分布
- ② 豪族の支配と人々のくらし

#### 2 肥前国の成立

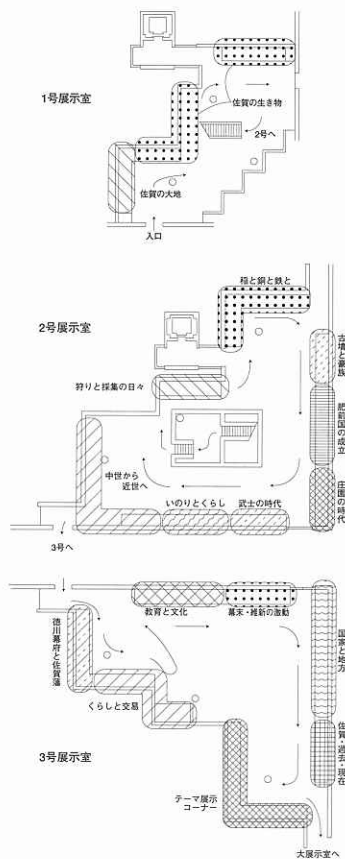
- ① 国府と城
- ② 仏教の広がり
- ③ 風土記と万葉

### D 肥前国と武士団

#### 1 荘園の時代

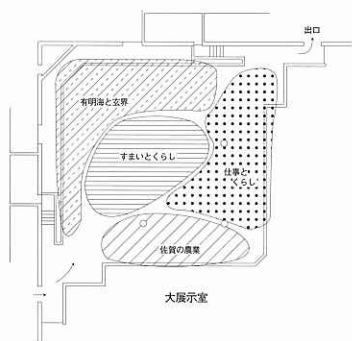
- ① 肥前国と荘園
- ② 山岳仏教と末法思想

## 各展示室と展示スペース



#### 2 武士の時代

- ① 鎌倉幕府と肥前国
- ② 蒙古襲来
- ③ 南北朝・室町期の九州
- ④ 海の武士団松浦党と倭寇



### 3 いのりとくらし

- ① 中世のくらし
- ② 信仰と文化

### 4 中世から近世へ

- ① 龍造寺隆信とその時代
- ② 朝鮮出兵と肥前名護屋城

### E 佐賀藩と近世社会

#### 1 徳川幕府と佐賀藩

- ① 諸藩の成立
- ② ア、長崎警備と佐賀藩  
イ、島原の乱と佐賀藩  
ウ、葉隠の成立

#### 2 くらしと交易

- ① 長崎貿易と肥前陶磁
- ② 武家のかたち

#### 3 教育と文化

- ① 藩校と私塾
- ② 近世の文化



### 4 幕末・維新の激動

- ① 異国船の渡来と開国
- ② ア、近代科学技術の導入・火術方と精煉方  
イ、長崎海軍伝習所と佐賀藩  
ウ、1867年パリ万国博と佐賀藩  
エ、佐賀藩の洋学研究 - 好生館と致遠館 -

### F 近代の佐賀

#### 1 国家と地方

- ① 廃藩から佐賀県再置まで
- ② ア、明治の群像 - 政治・産業・教育 -  
イ、明治の群像 - 芸術 -
- ③ 近代化と人々のくらし

#### 2 佐賀 - 過去・現在

- ① かわりゆく佐賀
- ② 明日に向けて

### G 佐賀の民俗

#### 1 すまいとくらし

- ① 佐賀の民家
- ② くらしの道具

#### 2 有明海と玄界

- ① 有明海と漁撈
- ② 玄界のくじらとり

#### 3 佐賀の農業

- ① 佐賀平野の成り立ちと農具
- ② 農と祭り

#### 4 仕事と道具

- ① 山のくらし
- ② 手漉き和紙
- ③ 大甕づくり
- ④ 肥前の製薬

\* 佐賀県民俗地図 (国・県指定重要民俗文化財)

### 3. グラフィックパネルとスチールネットの実際

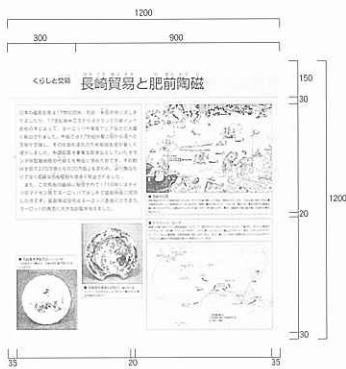
#### (1) グラフィックパネル

パネルの作成は基本的に展示業者が行ったが、構想の段階から学芸課職員と展示業者とが協議し、その後も、何度となく打ち合わせを行い、進めていった。以下にその内容を概述する

先に述べたように、展示項目は大項目・中項目・小項目と階層的になっているが、今回作成したパネルは、中項目と小項目のパネルである。実際の展示の際には、小項目パネルがそれぞれの展示資料と合致しており、解説文や写真、イラスト、図、表などを用いて、小項目の内容を説明するものである。中項目パネルは、2～4の小項目をまとめた内容を解説文とイメージ・グラフィックで表現したもので、中項目にともなう展示資料はない。また、大項目名は中項目パネルの上部に記載され、

大項目ごとに中項目パネルの色を統一し、さらに小項目パネルの上部も同じ色を配し、カラーコーディネートされ、大項目・中項目・小項目のまとまりが、はじめて見る人にも理解し易くなるよう配慮した。

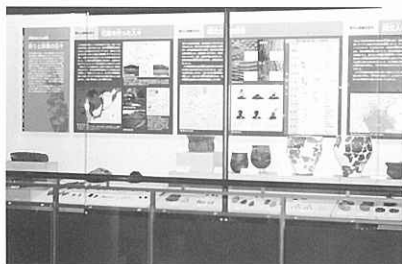
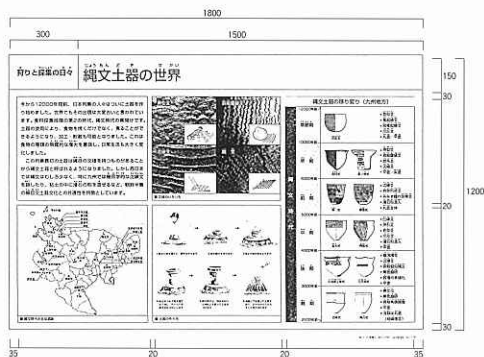
パネルの基本は小項目パネルであるので、この小項目パネルをどうするか検討し、600×600mmを1単位として、その倍数ということで1,200×1,200mmまたは1,200×1,800mmの寸法を設定し、さらに、これに合わせるため、中項目パネルの寸法1,200×600mmが決まり、これをもとにパネルのデザインが決った。そして展示ケース内に1/2スケールのサンプルパネルと実物大に伸ばしたコピーを持ち込み、シミュレーションを行い、パネルの大きさ、文字の大きさ、見やすさ、位置などをチェックし、確認と修正をおこなった。



中項目パネルの実際



小項目パネルの実際



小項目パネルの実際

## (2) スチールネット

従来、民俗部門を展示するこの大展示室は多くの展示資料とともに、大量の展示台や移動ケース、移動壁面などでいっぱい、非常に見づらい状況になっていた。このような状況を打破するために、壁面にスチールネットを設置することで、大量の展示資料を扱う民俗の部門の展示をより効率的に、より分かり易いものにする事が可能となった。

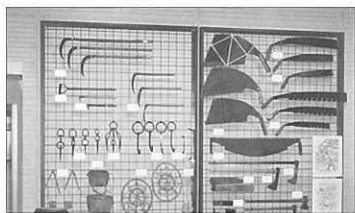
スチールネットは、スチール製の枠にφ6mmのスチール棒をタテ・ヨコのメッシュ状に取り付けたもので、スチール棒の間隔は100mmとした。

スチールネットの寸法は、タテが2,500mmで、ヨコが1,968mmと1,900mmの2種類あるが、これは設置する壁面の形状・構造、また取り付け方法から違いであって、基本的には2,000mm間隔という博物館

ただし、1号展示室の“佐賀の自然”の最初のコーナーは展示ケースの天井高が他の展示ケースより低いため、このコーナーに設置するパネルに関してのみ、中項目パネル900×600mm、小項目パネル1,200×900mmの寸法が決った。

これらの作業と平行して、パネルの内容についても、パネルごとに担当を決め、解説文の執筆、写真の選定、イラスト、図、表などの原図作成等の作業を行い、さらに展示替え期間の設定なども含めた実際の展示を想定した展示資料の選定と、それらの資料のキャプション作成のための原稿作り、またキャプションの寸法と設置方法の決定と作業を進めていった。

の建築構造上のグリッドに則つたものである。また、タテ2,500mmは展示の上端を床面から3,000mmと設定し、それに床置の展示台および展示資料の高さ500mmを差し引いた寸法である。また、展示資料のスチールネットへの取り付けは、ビニールで被覆されたワイヤーを用いた。



スチール・ネットへの展示例

## 行事案内

## 7月⇨9月

日 月 火 水 木 金 土  
 1 2 3 4 5 6  
 7 8 9 10 11 12 13  
 14 15 16 17 18 19 20  
 21 22 23 24 25 26 27  
 28 29 30 31

日 月 火 水 木 金 土  
 1 2 3  
 4 5 6 7 8 9 10  
 11 12 13 14 15 16 17  
 18 19 20 21 22 23 24  
 25 26 27 28 29 30 31

日 月 火 水 木 金 土  
 1 2 3 4 5 6 7  
 8 9 10 11 12 13 14  
 15 16 17 18 19 20 21  
 22 23 24 25 26 27 28  
 29 30

カレンダー内は、□印は休館日

常設展		展覧会		
観覧料大人200(150) 大学150(100)※高校生以下は無料、( )内20名以上団体		枠内に明記する以外は無料		
博物館		美術館		
1号展・2号展・3号展・大展	テーマ展	1号AB展	2号展	3号展
(展示準備のため休館)		4/25 彫刻	4/26 工芸 7/7	8/29
7/12	7/12	工芸 — 近代の陶磁—	(常設特別展) 「明治美術・ ニューモード /白馬会の画 家たち」	第130回佐賀県写真協会公展展 7/2(火)～7/7(日)佐賀写真協会
常設展 佐賀県の歴史と文化	肥前産 物図考の 世界			第38回佐賀大学芸術工学部展 7/9(水)～7/14(日)佐賀大学芸術工学部
				第24回独立C.S.展 7/16(火)～7/21(日)独立C.S.
	8/13	7/28	「描かれた 佐賀の祭礼」	第72回東光会佐賀支部緑光会展 7/30(火)～8/4(日)緑光会
	9/18	9/16	9/16	第17回九州新工芸展 8/6(火)～8/11(日)九州新工芸会連盟
10/13	10/13			第21回佐賀県書作家協会展 8/13(火)～8/18(日)佐賀県書作家協会
		(展示準備のため休館)		
		第9回陶芸アカデミー I A C 会員展 9/27(金)～10/13(日)(有料)佐賀県教育庁文化課		
				第20回佐賀県美術労働者美術展 8/28(水)～9/1(日)佐賀県美術労働者美術展
				第130回佐賀水園舎会展 9/10(火)～9/16(日)佐賀水園舎会
				第2回佐賀県立美術館 9/3(火)～9/8(日)佐賀県立美術館
				第130回佐賀水園舎会展 9/10(火)～9/16(日)佐賀水園舎会

## 日誌

## 新収蔵品展

会期：前期 平成8年4月26日(金)～5月19日(日)

後期 平成8年5月23日(木)～6月23日(日)

会場：博物館3号展示室

平成7年度に佐賀県立博物館・美術館で購入、または寄贈・寄託いただいた資料を一同に展示するもので、今回は自然史をはじめとした86件の資料を前・後期の2期にわたって展示しました。

なお、新収蔵品展は次年度から美術館で開催する予定で、より一層の充実を目指しています。



新収蔵品展展示風景  
(諸富町石塚1号噴出土資料ほか)

佐賀県立博物館・美術館報 第114号

平成8年8月1日

編集発行 佐賀県立博物館・佐賀県立美術館

〒840 佐賀市城内1-15-23 TEL.0952・24・3947 FAX.0952・25・7006

印刷 日之出印刷株式会社